

令和3年度

公立大学法人山口県立大学年度計画

令和3年3月

目 次

第1	教育研究等の質の向上	
1	教 育	P. 1
2	学生支援	P. 4
3	研 究	P. 5
4	地域貢献	P. 6
第2	業務運営の改善及び効率化	
1	事務等の合理化の継続的推進	P. 7
2	人事評価制度等による職能開発の推進	P. 7
3	働きやすい職場環境の整備	P. 8
4	大学の情報発信の仕組み構築	P. 8
第3	財務内容の改善	
1	自主財源の確保	P. 8
2	経費の抑制	P. 8
第4	自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供	P. 8
第5	その他の業務運営	
1	施設設備の整備、活用等	P. 9
2	安全衛生管理	P. 9
3	法令遵守及び危機管理	P. 9
第6	予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	
1	予算	P. 10
2	収支計画	P. 11
3	資金計画	P. 12
第7	短期借入金の限度額	P. 12
第8	重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	P. 12
第9	剰余金の使途	P. 12
第10	法第40条第4項の承認を受けた金額の使途	P. 12

第1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するため取るべき措置

(1) 特色ある教育の推進

ア 学士課程

(ア) 全学共通

① 地域で共創できる人材の育成

基盤教育の新カリキュラムについて、学内のワーキンググループを中心に令和4年度に向けた開講準備を進め、修得した資質・能力を地域で活用・展開できる力を育成する科目の、具体的な授業概要・授業方法・評価方法を整備する。

また、COC+終了後のやまぐち未来創生人材育成事業を実施するとともに、新カリキュラムに合わせた展開方法を検討する。{No. 1}

② 異文化理解能力の育成

基盤教育の新カリキュラムについて、学内のワーキンググループを中心に令和4年度に向けた開講準備を進め、異文化理解能力を育成する科目の授業概要・授業方法・評価方法を整備する。

また、現行カリキュラムにおいては、国際化推進方針に基づき、正課内外の異文化交流プログラムを実施しつつ、発展させる。{No. 2}

③ 基礎的英語運用能力の育成と接続体制の構築

基盤教育の新カリキュラムについて、学内のワーキンググループを中心に令和4年度に向けた開講準備を進め、基礎的英語運用能力を育成する科目の授業概要・授業方法・評価方法を整備するとともに、新カリキュラムにおける学科ごとの目標水準を決定する。

現行の基礎的英語運用能力に係る学科ごとの目標水準について、到達状況を把握して学部学科と情報共有し、目標達成のための学習支援を行う。{No. 3}

④ 地域連携教育と地域課題解決が両立する「大地共創教育」の実現

地域連携教育と地域課題解決を両立するための全学的なマッチング体制を整備する。

また、大地共創教育の成果を評価するためのアセスメントプランを策定するとともに、地域からの評価を得る仕組みを構築する。{No. 4}

⑤ 地域連携教育の可視化

産学公の連携体制を構築するために、大学と関係団体とで構成する新たな協議会（大地共創コンソーシアム（仮称））を開催し、教育研究活動の成果発表、外部からの意見集約を行う。{No. 5}

(イ) 国際文化学に係る専門教育（国際文化学部）

① 多文化共創社会に必要な実践的な知識と国際的行動力の育成（国際文化学部国際文化学科）

外国語を用いた専門教育、地域をフィールドとして実践的な知識・交流力・対応力を学ぶ専門教育、英語教員を輩出するための教育についての科目を運営するとともに、状況に応じた効果的な教育ができるよう授業改善を行う。

また、コロナ禍における留学や海外プログラムの仕組みについて、関係部局と連携し、オンラインの活用など新しい形を検討して実施する。{No. 6}

② 専門的外国語運用能力の育成（国際文化学部国際文化学科）

新カリキュラムの令和4年度開始に向けた準備を行い、新カリキュラムの履修モデルや外国語運用能力の育成に係る専門教育プログラムを整備する。

言語目標について学生の自己管理と意識向上を促進するため、言語科目のシラバスに外国語運用能力の目標を明示するほか、自己評価シートの配布等を行う。

また、コースごとに定めた言語目標水準達成のため、学科全体で到達度を把握するとともに、言語科目の教員、チューター教員で行う学修指導・支援を強化する。{No. 7}

③ 地域文化創造に資する人材の育成（国際文化学部文化創造学科）

専門教育の質的向上のため、昨年度に行った検証・改善をもとに、専門演習、卒業演習を運営するとともに、新たに他大学との共催により実施する「卒業展」についての課題を検証する。

また、すべての学生が学科の専門的教育により、地域で共創できる人材となるよう、地域に向けた学外発表を引き続き行うとともに、オンライン等の設備を活かした発表の課題を整理し、コロナ禍における学修成果の発表方法について検討する。

さらに、地域文化や地域産業資源について、地域の公共施設・団体等と連携協力しつつ、質の高い実践的な経験を伴った少人数教育を発展させて実施するほか、安定的な教育プログラムを運営するしくみを検討する。{No. 8}

(ウ) 社会福祉学に係る専門教育（社会福祉学部）

① 福祉マインドを基盤とした地域共創力の育成

全学年及び卒業生を対象とした「福祉マインドを基盤とした地域共創力に関するコンピテンシー」評価、就職先外部評価を実施し、その内容を分析して、これまでの調査結果と合わせて、令和4年度からの新カリキュラムの教育プログラムに反映させる。

また、地域共創力修得の一環として保育士資格取得を希望する学生への支援

を行う。{No. 9}

② 社会福祉専門職としての基礎的な実践力の育成

旧カリキュラムによる実習教育を実施し社会福祉専門職としての基礎的な実践力を養成する。

また、令和3年度入学生への新カリキュラムによる実習プログラムを確定させ、実習施設への説明、必要に応じて新規実習施設の確保を行う。

さらに、実習教育の質の向上のため、実習拠点施設において、外部評価としての聞き取り調査等を実施する。{No. 10}

③ 社会福祉士国家試験合格率の維持向上

社会福祉士国家試験合格率を維持向上するため、外部講師による国家試験対策講座の早期実施や少人数教育による強化対策を実施するほか、学部教員による対策講座、国家試験対策手帳の活用による自己評価や学習支援、模擬試験の受験推奨等の各種対策を実施する。{No. 11}

④ 精神保健福祉士国家試験合格率の維持向上

精神保健福祉士国家試験合格率を維持向上するため、外部講師による国家試験対策講座の早期実施、他大学との合同合宿への参加、少人数教育による強化対策を実施するほか、学部教員による対策講座、国家試験対策手帳の活用による自己評価や学習支援、模擬試験の受験推奨等の各種対策を実施する。{No. 12}

(エ) 看護学・栄養学に係る専門教育（看護栄養学部・別科助産専攻）

① 地域で活躍できる看護職の育成（看護栄養学部看護学科）

文部科学省へ新カリキュラムの申請を行う。

新体制のもと育成した人材が獲得した能力を可視化するため、学科内にワーキンググループを設置するとともに、評価指標や評価方法等の検討を行い、評価体制を整備する。

また、評価のひとつとして「卒業生調査」を実施するための計画を立案する。
{No. 13}

② 看護の専門性を強化するための学習支援システムの構築（看護栄養学部看護学科・別科助産専攻）

前年度までの実績や課題を整理して完成させた学習支援マニュアルに基づいて学習の支援を実施する。

また、その支援の効果を検証し課題を踏まえた改善を行う。{No. 14}

③ 地域で活躍できる管理栄養士の育成（看護栄養学部栄養学科）

教育改善チームによる現行の授業の見直しや修正と新カリキュラムへの調整を継続して行う。

また、新カリキュラムの令和4年度開始に向け、専門科目の内容を調整し、教育プログラムを整備する。

さらに、地域で活躍できる人材育成の評価体制を構築するため、評価のひとつとして「卒業生調査」を実施するための計画を立案する。{No. 15}

④ 栄養の専門性を強化するための学習支援システムの構築(看護栄養学部栄養学科)

前年度、課題として挙げた項目を盛り込み改善を行った学習支援マニュアル案を活用し継続して支援を実施するとともに、自学自習を支援する仕組みの評価を行う。

また、国家試験に関する情報提供並びに個別指導等を継続して実施する。
{No. 16}

イ 大学院教育

(ア) 国際文化学領域において地域に貢献できる人材育成の推進（国際文化学研究科）

入学者選抜方法を見直し、令和4年度からの新たな3つのポリシーに対応する入学者選抜方法を実施するとともに、幅広く志願者を募集するための新たな入試広報を展開する。

また、在学生の学修・研究に係る支援体制や環境を整備するほか、学修成果の可視化の仕組みの整備・充実に取り組む。{No. 17}

(イ) 健康福祉学領域において地域に貢献できる人材育成の推進（健康福祉学研究科）

入学者選抜方法を見直し、令和4年度からの新たな3つのポリシーに対応する入学者選抜方法を実施するとともに、幅広く志願者を募集するための新たな入試広報を展開する。

また、在学生の学修・研究に係る支援体制や環境を整備するほか、学修成果の可視化の仕組みの整備・充実に取り組む。{No. 18}

(2) 大学教育の質の向上に資する教育内容・教育方法の改善・検証

教育改善の取組を継続的に行うとともに、令和4年度からの新カリキュラム実施を踏まえた教学マネジメントの確立に向け、学修成果・教育成果の把握・可視化の仕組みの整備及びアセスメントプラン策定を進める。

また、留学生の受け入れに関する専用プログラムを実施するとともに、検証及び改善を行う。{No. 19}

2 学生支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 多様な学生の修学と学生生活の充実に資するための総合的な学生支援の推進と質保証

学生代表や学内外の関係機関との連携を図りながら、多様な学生に対応したきめの細かい学生支援を実施し、入学から卒業まで一貫して学生生活を支援できる体制を整備する。

また、高等教育の修学支援新制度の適正な実施及び分析のほか学生調査等による評価、改善を行う。{No. 20}

(2) 学生の社会的職業的自立に関する教育・支援体制の実質化

キャリア教育・就職支援方針に基づいた行動計画に沿って、学内外の関係部局との連携強化を図りながら、計画的・体系的なキャリア教育・就職支援を実施する。

また、学生調査等の分析を行い、方針に基づくキャリア教育・支援が適切に行われているか検証し、取組の改善を行う。{No. 21}

(3) 学生の就職決定率の維持向上

各学科に合わせた就職対策講座や個別のキャリアカウンセリング、ガイダンス、求人情報提供を計画的・体系的に実施する。

また、山口県インターンシップ推進協議会や山口しごとセンター等との連携による職業理解の促進、適職相談等を行い、各学科との連携を図りながら、学生のニーズに応じた就職支援を行う。{No. 22}

3 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 論文等発表活動の質の向上

論文等の投稿・発表の質の向上を図るため、前年度に設けた新たな支援策をはじめとする各種支援策を実施する。

また、各研究者の学外の研究創作活動・発表実績を把握する取組を強化するとともに、発表活動支援の改善を図る。{No. 23}

(2) 科研費等外部資金申請の促進及び研究の質の向上

科研費申請を促進し研究の質の向上を図るため、前年度に設けた新たな支援策をはじめとする各種支援策を実施する。

また、科研費以外の各種研究助成の獲得に向け、助成情報の提供や申請手続き支援等の支援策を検討する。{No. 24}

(3) 学内研究の推進が地域課題解決に資する「大地共創研究」の実現

地域からの研究ニーズと学内シーズのマッチング体制を活用して、県政課題や地域課題解決に向けた研究等の取組を推進する。

また、県や市町等との連携を深めるとともに、研究成果を地域にアピールし、更なる連携が促進される仕組みを検討する。{No. 25}

4 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 入学者に占める県内生割合の向上

令和4年度入学者選抜試験を着実に実施するとともに、国が進める入試改革の動きを注視しながら令和7年度入試内容の検討を行う。

また、前年度から本格実施した高大接続事業を全学的な事業として定着させるよう取り組むとともに、新校舎の完成を広報活動に活用するなど、県内高校生への訴求力を高める。{No. 26}

(2) 卒業生の県内定着の促進

県内就職を希望する学生数を把握し、在学中に県内定着を促進するプログラムを継続して実施するとともに、プログラムの課題を踏まえた改善を行う。

また、学科ごとの学内学会や同窓会、各職能団体等と連携するほか、大地共創コンソーシアムを活用して、卒業生の県内定着に向けた取組を実施する。{No. 27}

(3) 学内研究の推進が地域課題解決に資する「大地共創研究」の実現

地域からの研究ニーズと学内シーズのマッチング体制を活用して、県政課題や地域課題解決に向けた研究等の取組を推進する。

また、県や市町等との連携を深めるとともに、研究成果を地域にアピールし、更なる連携が促進される仕組みを検討する。{No. 25} 【再掲】

(4) 卒業生を対象とした地域共創人材の育成と、県内の専門職の能力向上支援

本学の教育研究の特色を活かした「キャリアアップ研修」を実施するとともに、卒業生をはじめとする専門職等のスキルアップにつながる新たな研修を開催する。

また、地域が求める専門職人材や卒業生の研修について、関係団体等にニーズ調査を行う。{No. 28}

(5) 県民の健康増進・文化振興に関する学習機会の提供

各市町等との協働により、出前型の公開講座を県内各地で実施するとともに、開催地域の拡大に向けた広報活動やニーズの把握を行う。

また、県民と学生が共に学ぶ講座として、公開授業や桜の森アカデミー等を実施するとともに、質を確保しつつ効率的な運営を図るための検討を進める。{No. 29}

(6) 地域の国際化に寄与する本学の国際的な地位向上と大学・地域間交流の推進（地域の国際化を推進する国際的チームアプローチ）

地域と連携したイベントの情報を発信し、本学学生・留学生や地域住民に参加を促すとともに、交流プログラム等を実施して地域に還元できる仕組みづくりを整備

する。

また、学術交流協定に基づく留学生・教職員の受入れガイドラインを策定するほか、海外向けの大学情報発信の充実に向けて取り組む。{No. 30}

- (7) 学生・教職員と地域住民が触れ合うことのできる地域交流施設の運営と活用
地域交流スペース Yucca を、学生・教職員と地域住民が触れ合うことのできる地域交流施設として運営する。

また、その実績を評価し、運営改善に活用する。{No. 31}

- (8) 県の政策実現及び市町その他団体の課題解決への貢献

県政課題や地域課題の解決に向けて、県や包括連携協定を締結した自治体等との情報交換を行い、本学の教育研究資源を活用した事業を展開する。

また、県政課題や地域課題解決に向けたシーズ醸成のための研究プロジェクトを進める。{No. 32}

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 事務等の合理化の継続的推進

- (1) 機能的な組織編制の確立

組織の再編による新たな体制における円滑な業務運営の一層の定着を図るとともに、効率化の状況を踏まえて必要な措置を講ずる。{No. 33}

- (2) 機能的な合議体制（各種委員会、会議）の確立

組織の再編による新たな体制における円滑な委員会運営の定着を引き続き図るとともに、機能的な合議体制の確立に向けて運営状況の確認・課題の整理等を行う。
{No. 34}

- (3) 業務監査体制の整備

業務監査を実施し、その結果に基づいて業務改善に取り組む。

同窓会とは定期的な情報交換等による連携を深め、業務運営の改善等につなげるよう取組を進める。{No. 35}

2 人事評価制度等による職能開発の推進

- (1) 人事評価制度を活用した人材の育成、組織の強化

計画的な人材の育成、適材適所の登用及び継続的な組織業績の達成に資するため、PDCAサイクルを活用した人事評価を実施する。{No. 36}

- (2) 教職員研修の計画的推進

教職員研修に関し、その目的や種類、内容、手続き等を体系的に示した統一的な研修実施方針に基づく年間研修計画の策定、実行、評価の取組を推進する。{No. 37}

3 働きやすい職場環境の整備

教職員の「ワーク・ライフ・バランス」が実現できるよう、年次有給休暇、育児・介護休業等の取得の促進や時間外勤務の縮減等の周知徹底を図るとともに、次世代育成支援対策推進法及び女性活躍促進法に基づく「一般事業主行動計画」に掲げた目標達成に向けた対策を実施する。

また、「魅力ある職場づくり」に向けて、管理職員等研修を開催し、人材確保・定着を図る。{No. 38}

4 大学の情報発信の仕組み構築

整備したマニュアル等を運用し、情報発信の仕組みの更なる定着を進め、積極的な情報発信を図る。

また、大学創立 80 周年に合わせて、大学の魅力や母校愛を高めることを目的とした広報を展開する。{No. 39}

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自主財源の確保

自主財源を確保するため、寄附金獲得のための取組を活発化させるほか、各種制度の見直しに向けて情報収集・検討等を行う。{No. 40}

2 経費の抑制

(1) 人件費の抑制

定員管理計画に基づいた教職員の配置を行うとともに、カリキュラムの見直しや組織の見直しを踏まえ、人件費比率を下げるための対策を講じる。{No. 41}

(2) 適切な予算編成及び予算執行の合理化の推進

前年度決算の分析及び今年度予算の執行状況を踏まえながら、管理的経費の抑制が図れるよう予算編成、執行管理を行う。

また、一括的な執行を取り入れた物品購入等の効果を検証するとともに、物品購入、旅費、謝金等に係る総合的な会計マニュアルを作成し周知する。{No. 42}

第4 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

自己評価については、外部評価を実施するとともに、その結果を公表し、学内にフィードバックする。

また、教育研究等の質の向上のための新たな自己点検を実施するとともに、次期認証評価に向けた情報収集を継続して行い、改善につながる仕組みを確立する。{No. 43}

第5 その他の業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

1 施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 施設設備の整備、活用

「山口県立大学第二期施設整備計画」に従い、厚生棟及び1号館の整備が計画的かつ円滑に進むよう、県と緊密に連携をとるとともに学内の連絡・調整等を図る。

また、既存施設の適切な維持管理及び施設の貸出等の有効活用を図る。{No. 44}

(2) 教育研究及び大学運営にかかる情報管理体制の整備

「情報化推進の方針と整備計画(グランドデザイン)」に基づいて、北キャンパス、南キャンパスのネットワークの環境整備及び維持管理に努める。

また、この計画に従い、関係部署と連携を図りながら、情報基盤及び情報管理体制の整備を推進する。

さらに、全学FD等を通じてセキュリティ意識の向上等に努め、適切なネットワーク利用を推進する。{No. 45}

(3) 図書館の利用環境及び図書管理体制の整備

新キャンパス図書館の円滑な運営を図るとともに、利用者ガイダンスや各種講座等を実施して図書館の利用促進を図る。

各学科等と連携しながら学生の学習環境及び教員の研究環境を整備する。

また、前年度に導入した国立国会図書館の電子化資料及び電子ジャーナル等の利用促進を図り、電子書籍の拡充を図るとともに、定期購読一般雑誌等については見直しを行う。{No. 46}

2 安全衛生管理

年間安全衛生実行計画に基づき、衛生委員会のもとで、教職員・学生の安全衛生を確保するための諸活動を総合的に実施する。

また、当該諸活動の実績を評価し、その結果に基づき所要の措置を講ずる。{No. 47}

3 法令遵守及び危機管理

法令遵守の実施体制に基づき、重要法令等の遵守に関する周知を行うとともに、法令遵守状況の監査を実施する。

また、危機管理マニュアルに基づく危機対応訓練・評価、その他訓練を実施する。{No. 48}

第6 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算

（単位 百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,311
施設費	0
授業料等収入	770
受託研究等収入	22
その他収入	164
計	2,267
支出	
教育研究費	454
受託研究等経費	22
人件費	1,599
一般管理費	192
計	2,267

【人件費の見積り】

総額 1,599 百万円を支出する。

退職手当は、公立大学法人山口県立大学職員退職手当規則の規定に基づき支給し、当該年度において職員の退職手当に関する条例（昭和 29 年山口県条例第 5 号）に準じて算定された相当額が運営費交付金として財源措置される。

2 収支計画

(単位 百万円)

区 分	金 額
費用の部	2,296
經常経費	2,274
業務費	2,082
教育研究費	461
受託研究費等	22
人件費	1,599
一般管理費	192
財務費用	0
雑損	0
減価償却費	22
臨時損失	0
収入の部	2,296
經常収益	2,167
運営費交付金	1,311
授業料等収益	777
受託研究費等収益	22
その他収益	35
財務収益	0
雑益	0
資産見返運営費交付金等戻入	20
資産見返物品受贈額戻入	2
臨時利益	0
当期純利益	△129
積立金取崩益	129
当期総利益	0

3 資金計画

(単位 百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,374
業務活動による支出	2,194
投資活動による支出	73
財務活動による支出	0
次年度への繰越金	107
資金収入	2,374
業務活動による収入	2,138
運営費交付金による収入	1,311
授業料等による収入	770
受託研究等による収入	22
その他の収入	35
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度からの繰越金	236

第7 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

3億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入遅延及び事故等の発生により緊急に必要となる対策費として借り入れることを想定する。

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときはその計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究並びに組織運営及び施設設備に係る経費の財源に充てる。

第10 法第40条第4項の承認を受けた金額の使途

前中期目標期間繰越積立金は、教育研究並びに組織運営及び施設設備に係る経費の財源に充てる。